

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年9月11日（金）午後6時30分から午後8時10分まで
- 3 開催場所 一関市産業教養文化体育施設アイドーム
- 4 参加者 18人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回の住民説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「廃棄物処理施設の環境対策」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

前回7月に開催した第2回説明会以降に検討をしてきた様々な内容について、その検討の状況について説明する。限られた時間ではあるが、より多くのご質問、ご意見をいただきたい。

よろしく願います。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について
令和2年9月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明を行った。
- (2) 検討状況について
事務局より説明を行った。
- (3) 今後の予定について
(2)と合わせて事務局より説明を行った。
- (4) 情報提供「私たちの暮らしと一般廃棄物処理施設」
日環センターより説明を行った。

9 質疑応答

参加者 施設に故障が生じた場合にも環境への影響はないのか。また、どのような対策が取られるのか。

事務局 フェールセーフという設計手法がある。これは、故障や障害が発生した場合でも、設備が安全に制御されるようにする設計手法であり、このような設計により廃棄物処理施設は、故障時でも安全に停止する。

設備が故障したら運転を止め、措置を講じることが基本であり、その状況は施設周辺の住民に報告し、一緒に施設を管理していきたい。

参加者 配付された「候補地の評価の状況（中間）」を見ると、経済性の評価において新処理施設と新最終処分場の候補地で大きな差があるのはなぜか。

事務局 新処理施設は、一関市と平泉町内の約2,500か所のごみ集積所から毎日収集運搬されるので、場所により収集運搬費が大きく違うが、新最終処分場は中間処理施設から最終処分場までの運搬台数は1日に3台から4台程度しかなく、運搬費に大きな差異がない。

収集運搬費は、新処理施設の想定使用年数40年間で要する経費を推計したものであり、どの新処理施設の候補地でも140億円から150億円程度になるため、新処理施設と新最終処分場の候補地の経済性に関する評価に大きな差が生じている。

参加者 新処理施設の整備場所は、誰もが安心できる場所であることが一番大事だと思う。廃棄物処理施設は、一般的に市街地から離れた小高いところにあるイメージだが、「真柴字堀場ほか」の周辺には中田団地もあり、土地が低いためイメージとは大きく違う。

事務局 それぞれ4か所の候補地は、選定委員会を組織して2年近い時間をかけて一関市、平泉町の全域から選定したものである。候補地の選定は、整備に適さない場所、避けるべき場所を除外し、さらに条件的に望ましい部分を加点しながら絞り込んだものであり、言い方を変えれば、全ての候補地は整備に適し、安全に整備ができる場所である。

それぞれ4か所の候補地から1か所に絞り込むため、いろいろな視点から比較をしており、前回の説明会で説明した各基本方針の項目ごとの評価項目のうち、評価作業を終えた項目を中間評価として説明した。残りの項目は評価作業中であり、次回の説明会では全体の評価内容がわかるように示す予定である。

参加者 自治会でごみ集積所を1か所整備するのに約3か月を要した。生活に必要なものだが、その付近の住民から了解を得ることが大変難しいことを体験した。今後、整備場所が決まったあとに反対が起こらないよう、十分に検討して進めるこ

とをお願いしたい。

参加者 新処理施設は、ただの焼却施設ではなく、ごみを資源化できる施設がいいのではないかと。整備費用が高額になっても、自然環境のため、ごみの減量化を考えてほしい。

事務局 新処理施設の処理方式は、焼却方式に加え、堆肥化などの資源化率の高い処理方式の付加的な導入を引き続き検討する案としており、何らかの形でリサイクルの促進に寄与する施設として検討を進めることとしている。

現在、燃やすごみ以外は、一関清掃センターと大東清掃センターのリサイクル施設で資源化処理などを行っている。

両施設は、まだ耐用年数があるので継続利用を考えているが、国がプラスチック製品を一括回収する方針を出したため、その一括回収の制度が詳しくわかった時点で現在のリサイクル施設をどうするか検討することとしており、リサイクルについては引き続き検討が必要な部分がある。

なお、新処理施設では余熱を活用して発電を考えており、電力や余熱などの活用も一緒に検討していく。

参加者 新処理施設では、焼却方式に加え、堆肥化を付加的に考えるということだが、堆肥化処理のためには生ごみなどの有機物を分別する必要があると思うがどう考えているのか。

事務局 施設整備検討委員会では、施設の処理方式や形式だけではなく、一関市と平泉町のごみ処理はどうあるべきかという段階から検討を進めており、ごみの分別の種類は現在より増やすべきか、減らすべきかなどもこれから検討していく。

堆肥化のために生ごみなどを分別するかどうかは、具体的にはこれから検討するが、あまり分別の種類を増やさない方向で検討したい。

参加者 新処理施設には余熱活用施設も整備するとの話だが、3ヘクタールでは足りなくなると思う。そうした場合、どのように計画していくのか。

事務局 候補地選定を進める際、5ヘクタールの面積を基準に候補地を選定している。その内訳は、焼却施設が2ヘクタール、リサイクル施設と災害時ストックヤード、余熱活用施設の敷地としてそれぞれ1ヘクタールであり、各候補地は5ヘクタールを確保できる場所が選定されている。

余熱活用の方法がまだ決まっていないので、焼却施設と災害時ストックヤードの3ヘクタールで造成の概略検討図を作成したが、余熱とリサイクルの方向性が決まれば、その面積分を加えて造成する考え方である。

参加者 リサイクル施設も併せて整備するためには、付帯設備などを含めると経済性の

比較で想定した3ヘクタールの造成では足りず、5ヘクタールから8ヘクタールが必要と考えるが、候補地の選定は適切なのか。

事務局 現在、一関清掃センターと大東清掃センター2か所で一関市と平泉町から出た全てのごみを処理できている。そのため、候補地選定の際、新処理施設の必要面積の考え方は、現在の処理施設の敷地面積を基準に、余熱活用施設の分1ヘクタールと災害廃棄物ストックヤード分を1ヘクタール加えて5ヘクタールと設定して候補地を選定した。5ヘクタールあれば施設は配置できると考えている。

参加者 初めて説明会に参加してもわかるように、紙の地図ではなく、グーグルマップやストリートビューなどを活用し、ビジュアル的に分かりやすい見せ方をすべきではないか。

事務局 そのような視点は、確かにそのとおりでと思う。一関市が撮った航空写真や現地確認の際の写真もあるが、具体的な建物や車などが写っている関係もあることから、次回までに検討したい。

参加者 狐禅寺地区で施設整備の話が進められていたとき、その周辺で余熱などのエネルギーを使う施設をつくりたいという説明があった。また、ILCのごみを運び込むために国道284号沿いに施設を整備したいとの話だったと記憶しているが、あれは何だったのか。

事務局 現在、狐禅寺字草ヶ沢に一関清掃センターがあり、その敷地に新しい焼却施設と余熱活用施設を整備したいと提案したが、周辺住民の理解が得られなかった。

また、ILCの地下トンネルが大東から奥州市にかけて検討されており、そこから一ノ関駅の幹線沿いのどこかにメインキャンパスができるだろうとの話をしたが、ILCのごみを燃やすといった話はしていない。

参加者 現地調査に入るための同意書を土地所有者からとり、現地確認に入ったことを確認している。候補地周辺で測量杭を打っての測量や、電力・通信の工事、道路の仮設工事などが行われている場所を確認している。

特定の場所ありきで選定作業を進めているのではないか。

事務局 土地所有者から承諾をいただいた上で、全ての土地の現地確認を8月19日に行っている。また、お話の測量や工事などは、候補地の絞り込み作業とは何の関係もない。

説明内容に不明な点があるときは、当組合に直接お問い合わせいただきたい。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年9月12日（土）午前9時30分から午前11時10分まで
- 3 開催場所 マリアージュ
- 4 参加者 31人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回の住民説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「廃棄物処理施設の環境対策」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

前回7月に開催した第2回説明会以降に検討をしてきた様々な内容について、その検討の状況について説明する。限られた時間ではあるが、より多くのご質問、ご意見をいただきたい。

よろしく願います。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について
令和2年9月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明を行った。
- (2) 検討状況について
事務局より説明を行った。
- (3) 今後の予定について
(2)と合わせて事務局より説明を行った。
- (4) 情報提供「私たちの暮らしと一般廃棄物処理施設」
日環センターより説明を行った。

9 質疑応答

参加者 前回の説明会で話の出た候補地付近で行われている工事について、その内容を
確認した結果の説明を求める。

また、同じ場所で光ケーブル工事を9月4日に確認しており、一関市長勝部修
と看板が出されていたが、関係はあるのか。

事務局 前回説明会の際、候補地周辺の道路脇でトランス工事をしているとの話があっ
たが、新処理施設や新最終処分場に関係しているものではないと申し上げた。少
なくとも広域行政組合や一関市ではないことは確認できた。民間の工事になるの
で、工事の発注元や目的などは、この場で説明することでもないと思い、それ以
上の調査はしていない。

また、光ファイバ工事の発注者が一関市長という話だが、初耳である。一関市
でも光ファイバの全域敷設は、先の議会で補正予算が可決され、発注に向けた準
備は進めているが、まだ発注に至っていない。

市道の関係などで発注者が一関市となっていたか、これから確認したい。

参加者 放流水の基準について、環境影響評価の基準に合致すれば、現況より悪くなっ
ても問題ないのか。現況よりも悪くなつては困る。

事務局 環境基準や排出基準は、項目ごとの上限値を示したものであり、その範囲内で
施設を運転するということである。

施設建設場所の下流に水路があるような場合、例えば、施設建設前の水路の水
の状況を測り、施設建設後において定期的に観測をすれば、その水路の水の何か
1つの項目でも若干でも数値に変動があるかが確認することができるので、不安
を持つ方に対しての説明にはなるかと思う。

しかし、環境基準や排出基準は、基準値内であれば安全だという指標なので、
全ての項目で数値に変動がないようなことを目指しているわけではない。

また、例えば今稼働している施設と新施設を比較すると、今稼働している施設
も法規制値を十分クリアして低い環境負荷レベルで操業しているが、新施設は環
境負荷が少なくとも大きくなることはない。

それはこれから詳細に、いろいろと計画などを進めていくので、その都度、情
報提供したい。

参加者 最終処分場はクローズド型で整備して欲しい。

屋根をつけると経費がかかると言うが、屋根にソーラーパネルなどを付け、環
境に優しいことを見せた方が、長い目で見れば有効活用になるのではないか。埋
立地内に雨水が入ると、排出される汚れた水の量も多くなると思う。

事務局 処分場の形式には、オープン型とクローズド型があり、一長一短があるため、いろいろな項目で比較して評価をした。

施設の安定化までに必要な水の量は、オープン型もクローズド型も変わりはない。オープン型は、降った雨を貯留槽である程度一定に調整するので、定期的に排水されるが安定化までは比較的早い。クローズド型は、安定化するまで人為的に散水を続ける必要があり、その時間も長くなる。その時間は20年や30年という年数になり、その間施設を管理し続けなければならない。

安定化までの時間の比較検討では、安定化が早いオープン型が優れるという評価になる。

なお、新最終処分場の水処理施設の規模は、100立方メートル程度と想定され、高圧受電になると思うが、焼却施設に比べると使う電気量は非常に少ない。オープン型とクローズド型の比較では、クローズド型は建物の換気などいろいろと電気を使うので、オープン型の方が電力の消費量は少ない。

本日、説明したのは、最終決定ではなく、案の段階で皆さんにご説明した。そして、いただいた意見などをさらに反映させながら最終決定をしたい。

参加者 先日、議員が場所を見学したと聞くが、その感想を聞いてみたい。

事務局 現地確認は、8月19日に議員ではなく施設整備検討委員会の委員が行っている。その構成は、一関市の職員と平泉町の職員と組合の職員である。

今回、中間の評価を示しているが、現地確認を踏まえての評価は、今まとめているので、次回の説明会で示したい。

参加者 新処理施設整備候補地の評価の中で、収集運搬費は40年間の運搬量で算出しているという話だが、新処理施設の耐用年数は40年ということか。

事務局 新処理施設は、おおむね40年間使う考え方から、40年間分の収集運搬経費を試算した。経済性の評価のために積算した経費については、その大半である140億円から150億円程度が収集運搬費であり、そのほかが造成費や取付道路の整備などの初期費用になる。

参加者 一関と大東清掃センターのリサイクル施設の耐用年数は何年としているのか。

事務局 リサイクル施設の耐用年数は38年として検討を進めている。

参加者 年内に候補地を決定すると説明があったが、年内とは何月なのか。

事務局 今日、説明した評価の状況は、評価作業を終えた項目についてであり、作業中の評価項目もあるので、11月、12月ぐらいには、第4回目の説明会を開催し、できるだけ評価作業を終えた内容を説明したい。

参加者 アスモで一関市議会の様子が放送されているが、施設整備検討委員会の会議の

模様も聞かせてほしい。

事務局 検討委員会の会議は非公開だが、会議の概要は会議録にまとめて組合ホームページに掲載している。検討の際に使用した資料なども一緒に公開しているので、ご覧いただきたい。みんなで使う皆さんの施設なので、意見をいただき、みんなでつくっていききたい。今後とも意見を寄せていただきたい。

参加者 新処理施設内にストックヤードを設けるということだが、新最終処分場内にはストックヤードは不要なのか。

事務局 災害時ストックヤードは、災害が起きたときに災害ごみを一旦持ち込み、分別などを行った上で中間処理施設に運ぶための施設なので、新処理施設には必要となるが、最終処分場は埋立処分する施設なので必要としない。ただし、災害時ストックヤードのような使い方もできるというのがオープン型の利点であり、そういった活用も考えられる。

参加者 候補地の評価の状況の中で「想定筆数」とあるが、なぜ想定筆数が比較項目となりえるのか。

事務局 選定委員会が選定したそれぞれ4か所の候補地は、それぞれの施設の建設に適した場所だが、1か所ずつに決めなくてはならないため、候補地間で少しでも差がつくような比較評価の方法を考えた。

評価ための項目としては、施設建設のためのいろいろなコストを考えた。その中には時間的コストもある。筆数や共有地が多いということは、用地取得までの間の時間的コストがかかる。事務的には大した話ではないが、少しでも差をつけるためにこういう項目となった。

この項目の中には重要なものも、それほどのものではないものもある。それらの判断は、全ての項目の評価作業をした上ですることになると考えている。

参加者 それぞれの候補地は、事務局だけで選定したのか。千厩地区は北ノ沢ありきだったのではないか。2人に協力の要望があったという話を聞いている。

北ノ沢は町が近く、学校から1キロメートルも離れていない。なぜ北ノ沢を選定したのか。みんな納得していない。私が北ノ沢に決定したと聞いたのは4月だ。5月にトランスができ、この裏にカルバートが設置された。もう準備万端だ。だから、みんな町の人も北ノ沢ありきではないかと言った。

事務局 候補地の選定は、事務局だけで行ったものではない。整備候補地選定委員会を設置し、最終処分場は1年7か月、新処理施設は1年2か月かけて選定した。

先ほどのトランスの話、ボックスカルバートの話、それから測量をしたなど、いろいろな噂があるようだが、それらは組合がやっていることではないので、皆

さんは惑わされないでほしい。

これから何十年間皆さんで使う施設なので、いろいろな意見をいただきながら、みんなで一緒につくりたい。私たちは絶対うそはつかないので、不満な点、不明な点、ご不安な点があれば、直接組合に連絡いただきたい。

参加者 候補地付近での工事などは、広域行政組合が行っていなくても、一関市など別の行政で行っている可能性もある。工事などを行った理由を示すべきではないか。

事務局 広域行政組合や、その構成団体である一関市と平泉町は、候補地を絞り込むための評価作業以外は行っておらず、トランスや光ファイバの工事も広域行政組合では発注していない。

トランスの工事業者や発注元、光ファイバ工事などが市道の関係であったとすれば、第4回の説明会までに調べておきたい。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年9月12日（土）午後1時30分から午後3時5分まで
- 3 開催場所 滝沢市民センター
- 4 参加者 12人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回の住民説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「廃棄物処理施設の環境対策」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

前回7月に開催した第2回説明会以降に検討をしてきた様々な内容について、その検討の状況について説明する。限られた時間ではあるが、より多くのご質問、ご意見をいただきたい。

よろしく願います。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について
令和2年9月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明を行った。
- (2) 検討状況について
事務局より説明を行った。
- (3) 今後の予定について
(2)と合わせて事務局より説明を行った。
- (4) 情報提供「私たちの暮らしと一般廃棄物処理施設」
日環センターより説明を行った。

9 質疑応答

参加者 本日説明のあった候補地の評価の状況は、どの程度の重みを持つものか。

事務局 説明したのは、「受電環境」、「給水環境」、「施設建設の阻害要因」などの評価作業を終えた項目の評価結果であり、継続して評価作業を進めている項目もある。評価作業を終えた項目と、現在、評価作業中の項目のそれぞれの重みに関しては、まだ分からない。選定委員会が選定したそれぞれの候補地から1か所に絞り込むため、思いつく評価項目をいろいろと揚げ、課題や利点を整理し、数字に置きかえてきたが、どの評価項目を重視するべきかは、全ての評価項目の評価作業を終えた後の検討になる。次回の住民説明会の際に、全体を示せるよう事務を進めている。

参加者 説明を聞き、新処理施設の処理方式は、バイオガス化を併設するか、全量焼却するかを集約されるものと思った。焼却方式が絶対的に有利だということではなく、より具体的に、例えば二酸化炭素の排出量や、エネルギーの回収などの観点から詳細に詰めて示してほしい。

事務局 広域行政組合と一関市、平泉町の職員で施設整備検討委員会を組織し施設の整備を検討しているが、そこで検討してきた要点についてだけを説明した。

新処理施設の方式は、焼却方式を基本とするが、堆肥化方式などの資源化率の高い方式を付加的に導入できないか、これからも継続して検討する。

さらに細かい資料は、未定稿の状態。候補地の評価項目には、評価作業を終えたものと評価作業中の項目があると説明したが、それらが全部整理できれば、資料として出せると思うので、もう少し時間をいただきたい。

参加者 候補地の評価の中間の状況からは、「弥栄字一ノ沢ほか」が最も有力な候補地かと思われるがどうか。

事務局 評価作業を終えた項目の評価の中間の状況を示したものであり、さらに「交通安全」や「景観との調和」、「資源の活用先」などの評価も進める。また、新たに「想定筆数」や「土質」なども評価項目に加えているように、今も何か適切な評価項目はないのかも検討している。それらも含めて全体での評価を検討することになるので、これがそのまま結果になるということではない。

参加者 放射能に汚染された稲わらなどの廃棄物の保管状況とその処理方針を尋ねる。狐禅寺に整備を提案した際には、仮設焼却施設も含めて提案されたが、今は、新処理施設と最終処分場だけになっている。将来的に新処理施設の隣接地に仮設焼却炉を整備するようなことはあるのか。

事務局 今日資料を持ってきていないので、保管状況については申し上げられない

が、対象には稲わら、牧草、ほだ木、シイタケ、堆肥などがある。

8,000ベクレルを超える指定廃棄物は、環境省が仮設焼却炉を整備して処理することになっている。指定廃棄物の処理が終われば、組合が仮設焼却炉を譲り受け、8,000ベクレル未満の汚染廃棄物を一般廃棄物と混ぜて処理をする。仮設焼却炉の整備主体は、あくまでも国であり環境省だが、環境省と県と市の3者で場所を探していく。新処理施設は、一関市、平泉町内の2,500か所のごみ集積所から毎日運ばれるので、利便性のいい場所に整備するが、仮設焼却炉で処理する廃棄物はその量や保管場所も限られるので、あまり利便性を求めない。そのため仮設焼却炉の整備場所の選定の仕方は、新処理施設とは異なると思う。

参加者 交通インフラについて危惧している。国道284号沿いに候補地が多いが、国道284号は片側1車線で朝夕に関わらず交通量が多い。そこは通学路にもなっているが、ごみ収集車や関係車両でさらに交通量も増え、渋滞の発生や交通事故が多くなることが懸念される。

事務局 前回の説明会では、それぞれの候補地の概略検討図を配布したが、その図には国道284号からの取付道路については右折レーンなどを入れている。8月19日に現地確認をした際も、交通安全や取付道路といった視点も入れながら確認しているので、「交通安全」という評価項目についても、候補地の評価に加味していく。交通安全対策については、当然に実施するものである。

参加者 100トン程度の小規模な施設は、バイオガスや堆肥化と併設する例がエネルギー収支などの面でもいいと聞くので、積極的に導入を考えてほしい。

回収するエネルギーは、電気と熱しかないと思うが、4か所の候補地のうち、熱を利用する可能性がある候補地があるのか。なければ電気だけになると思うが、その場合、新処理施設を自治体電力のメインに近い発電施設として考え、市が使う電力をそこから供給するという発想で施設の整備を考えられないか。

事務局 回収エネルギーの活用は、候補地によって変わりはないと思う。候補地選定の際にも面積を5ヘクタールとして選定を進めたが、その中に余熱活用施設の敷地も含んでいる。どういう施設とするか、どういう余熱活用をするかはまだ決まっていないが、余熱を活用する施設を近くに整備する場合にも、その敷地だけは確保した形で候補地選定をしている。

自治体での発電の活用には、いろいろな方法がある。例えば自己託送制度という、発電した電気を離れた施設で使う制度もあるので、いろいろな可能性を検討しながら対応していきたい。

参加者 説明の中で、評価作業の終わった項目と、これから評価作業をする項目がある

と話があった。年内に大体の候補地を絞り込んでいきたいと説明があったが、作業を終える見通しはあるのか。

事務局 この住民説明会は、大体2か月に1回のペースで開催しているので、評価作業中の項目も、次の住民説明会では全体がわかるようなものを示したい。それが11月になるか、12月になるかは言えないが、年内の絞込みを目標にしている。

参加者 1人当たりのごみの排出量は、減っていないようだ。今後、施設規模の話が出てくると思うが、ごみの減量に全力を尽くす姿勢で施設規模を圧縮できないか。

新処理施設では、災害廃棄物を扱うということなので、想定される災害廃棄物の量などの推計なども教えてほしい。

事務局 人口の減少により廃棄物の総量は減ってきているが、1人当たりの廃棄物の発生量は少し増えている傾向にある。分別して資源化率を上げる工夫が必要なことはわかるが、高齢化により分別の種類を覚えきれないとの声も寄せられている。新処理施設は、大体30年から40年という長期間使用する計画なので、ごみの分別や収集、指定ごみ袋のあり方なども検討していきたい。

また、施設の規模を検討するに当たり、過去10年間程度の災害廃棄物の発生量の実績を反映させたい。自然災害が発生した場合、1年間で処理する災害廃棄物の量は東日本大震災を除き概ね1,000トン前後なので、その量を処理できる規模としたい。

参加者 新処理施設の建設に関わる計画の中に、余熱利用施設として、例えば保養施設や、温水でハウス栽培するようなことも可能と計画にあったと思うが、その計画は今も変わらずあるのか。

事務局 余熱活用については、今回、処理方式の案を焼却方式と説明したので、今後、施設の規模が決まれば、発電量や熱量の試算ができる。電気などは、まず処理施設で使い、余った分を余熱活用施設で活用することを検討するが、活用の方法はまだ決まっていない。余熱を有効利用する考え方には変わりはない。

参加者 交通関係を非常に危惧しており、真滝バイパスなどが整備されて道路が非常によくなる一方、交通が激しくなっている。

今でも大型の車両や他県ナンバーの車が多く、非常に危険度が増している上に、ごみ関係の車両によりさらに増していくと考える。交通安全関係では、車がなかなか止まらず、子供たちが交差点を横断できない場合がある。例えば、押しボタン式の信号機を要望したい。

また、多くの動物がはねられているが、すぐには片づけられず、暑いと臭いもしてくる。いろいろな車が増え、ごみが投棄されて非常に汚い。人家がないので

周辺の人が掃除できず、有志で掃除や看板の設置などを行っているが、掃除した次の日に新しいごみが捨てられるような実態である。

いろいろな影響についても、総合的に対策を考えてほしい。

参加者 交通の件も含め、関係の部署が連携し、県や市の縦割りではなく連携がとれるよう、地域の要望を吸い上げられやすいシステムを構築してほしい。

事務局 収集車や持込みをする車で交通量は増える。そのほかに、余熱を活用する施設の整備も考えており、人や車が集まる場所になるから、それなりの交通対策は必要になる。

交通安全施設の整備という観点からできるものは、国道284号は県の管理なので、県で公安委員会協議などの手続を経て、どのぐらいの車が増えるのかというその予測量に基づいて交差点改良や、信号などの必要性が検討される。国道に接続される市道もあるので、市と国道の管理部署で必要な対策をする。

問題なのはその他の方であり、人々の意識に関わる部分である。あとは動植物の話。地域の話がきちんと通るようなシステムということだと思うが、通学路に関しては交通安全プログラムがあるが、それも結局は交通安全施設に特化したものである。捨てるごみや、動物の死骸までを含めた仕組みづくりは、これからの課題だと思う。

廃棄物処理施設ができるから何かをするのではなく、どの地域でもそのような声通って、何か工夫ができれば理想だと思うが、なかなかそうは至っていない。通学路の取り組みを1つのモデルにしながら汎用していければいいと思う。

参加者 新処理施設の経済性の評価の金額の内、収集運搬費はどのくらいか。

事務局 処理施設の費用のうち、収集運搬費は140億円程度から150億円程度である。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年9月12日（土）午後3時30分から午後4時50分まで
- 3 開催場所 滝沢市民センター
- 4 参加者 6人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回の住民説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「廃棄物処理施設の環境対策」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

前回7月に開催した第2回説明会以降に検討をしてきた様々な内容について、その検討の状況について説明する。限られた時間ではあるが、より多くのご質問、ご意見をいただきたい。

よろしく願います。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について
令和2年9月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明を行った。
- (2) 検討状況について
事務局より説明を行った。
- (3) 今後の予定について
(2)と合わせて事務局より説明を行った。
- (4) 情報提供「私たちの暮らしと一般廃棄物処理施設」
日環センターより説明を行った。

9 質疑応答

参加者 中間評価の状況の中で、「滝沢字道目木ほか」の候補地に文化財包蔵地が隣接しているとあるが、具体的に説明をお願いします。

事務局 9月発行の組合広報紙の4ページに「滝沢字道目木ほか」の地図を掲載しているが、造成位置の下部に網掛けで表示されているところが文化財包蔵地である。これは、文化財が埋蔵されていることは判明しているが、その範囲の詳細は分かっていない。埋蔵されている文化財は、平安時代の文化財と聞いている。

参加者 「滝沢字石法華ほか」の候補地の給水環境②は「△」の評価だが、「滝沢字道目木ほか」では「○」となっている。どちらの候補地でも公共水道を使うのであれば同じ評価になるのではないか。

事務局 廃棄物処理施設で使う水は、公共水道で計画しており、水量が不足する場合は井戸を掘ることなどが考えられる。

給水環境は2つの項目で評価している。どちらの候補地も給水区域内であるため「給水環境①」は同じ評価だが、「給水環境②」は配水管までどの程度の距離があるかで評価したものであり、「滝沢字石法華ほか」の方が排水管まで距離があるので示した評価となった。

参加者 両施設の整備候補地を1か所に絞り込んでから、地権者や周辺住民から反対の声が上がることも考えられる。どのように1か所に絞り込むのか。

事務局 絞り込みは、評価項目を設定し、数値化できるものは数値化して、数値化できないものは利点と課題を整理して評価する。今回示したのは、評価項目全体のうちの一部であり、残りの項目についても評価を進めているので、次回以降の説明会でその評価の結果も示す。全ての項目の評価した段階で評価項目の重要性を加味して総合的に判断し、1か所に絞り込む。

参加者 候補地を1か所に絞り込んでから地権者や周辺住民から反対の声が上がった場合、次点の候補地に話を持って行くのか。

事務局 8月に候補地の現地確認をするため、土地の立入りの承諾を地権者に求めたが、用地交渉などの具体的な話はしていない。候補地の絞り込みが終わった段階でも地権者と具体的な用地交渉までは進まないと思われる。まずは客観的な評価を行うが、地権者などからその結果の了解を得られるかは分からない。

今言えるのは、年内を目標に評価を進め、候補地を絞り込みたいというところまでである。

参加者 候補地周辺地域にとっては、地域振興策に一番関心がある。例えば、熱エネルギーの利用についても、整備する地域によってその方法が異なると思う。これから

地域の要望などをどのように捉えて進めるのか。

また、道路整備などは、9月発行の組合広報紙に掲載された概略検討図に示される取付道路だけで十分なのか。国道284号の交通緩和のために最短のアクセス道路を整備して欲しいなど、いろいろな要望が出てくると思うが、要望を出す機会があるのか。

どのように地域に還元し、地域おこしをするかは、地域と一緒にした取組が重要である。そういうことも考慮してほしい。

事務局 地域振興や余熱活用は、これから具体的な内容を検討していく。しかし、地域振興の検討が施設整備に先行するのは適当でなく、まず進めるべきは、住民にとってどの候補地が最良であるかを客観的に評価することだと思っている。

地域振興や余熱活用の話し合いのためには、地域住民による組織があれば進めやすい。施設の整備後、環境対策などについての協定などを締結した上で施設を運営することが全国的にも多く、そういう視点からも組織化されることが望ましい。

参加者 説明会を開催するたびに参加者が少なくなっている。案内を広報と別様とするなど、説明会の案内の方法を工夫して欲しい。

事務局 これまで構成市町の広報紙に掲載の案内を掲載してきたが、今回は組合広報紙に掲載したほか、地権者に案内を直接送付している。組合からは案内を周知する手段がなく、構成市町の行政区長に依頼して案内を配布いただいているが、できるだけ多くの方に参加いただけるよう方法を工夫したい。

参加者 現在の処理施設には、毎日の処理量に対して処理能力には余裕があるのか。

事務局 一関清掃センターは日量150トンの施設規模だが、設計が古く、近年のごみはプラスチックやビニールなどを多く含み、熱量が高いため、炉に負荷がかかる。そのため、施設規模の6割程度の量に抑えて運転している。

大東清掃センターは日量80トンの施設規模であり、ごみの量が減ったため、2炉ある焼却炉の片方を交代で運転している。

参加者 ごみの減量が必要だと思う。ごみの減量化に資する事業をしてほしい。

事務局 現在、ごみ発生量の将来予測をもとに施設規模を検討している。ごみの発生量は、人口が減少しているので総量は減っているが、一人当たりの排出量は増える傾向である。

ごみ減量化のため、分別の徹底をこれまで進めてきた。構成市町と協力して、平成29年から雑がみの分別収集もしているが、目に見える効果はない。

新処理施設は30年から40年使うので、どういう分別がいいのか、収集のあり方

はどうあるべきかなども検討する。ごみ減量化のため、分別を徹底して資源化するべきとの意見があるが、高齢化が進み、分別が難しいという意見もいただく。その面も考え併せて検討していきたい。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年9月13日（日）午前9時30分から午前11時20分まで
- 3 開催場所 弥栄市民センター平沢分館
- 4 参加者 13人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回の住民説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「廃棄物処理施設の環境対策」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

前回7月に開催した第2回説明会以降に検討をしてきた様々な内容について、その検討の状況について説明する。限られた時間ではあるが、より多くのご質問、ご意見をいただきたい。

よろしく願います。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について
令和2年9月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明を行った。
- (2) 検討状況について
事務局より説明を行った。
- (3) 今後の予定について
(2)と合わせて事務局より説明を行った。
- (4) 情報提供「私たちの暮らしと一般廃棄物処理施設」
日環センターより説明を行った。

9 質疑応答

参加者 最終処分場の構造によっては、焼却炉を安価に整備することも可能だと思う。
最終処分場と焼却炉の関連性はどうか考えているのか。

事務局 質問のような考え方もあるが、どちらかの施設で安易な処理をするようなことは、日本ではほとんどない。日本の環境技術は世界的にも極めて進んでおり、今ある最善の技術で整備するのが処理施設の基本的な考え方である。

法律は、住民の安全安心を守るものだが、法律を超えたよりよい技術でつくる。非常に高額な施設であり、整備したものは40年程度使っていきたい。施設の稼働期間中に新しい技術などが出てきたらそれを取り入れ、より環境に優しく安心できる施設にしていく。

処分場がどのような構造を採用しても、新処理施設は最善の技術で施設を整備する。

参加者 最終処分場の遮水はシート方式だと思うが、シートの強度に不安がある。シートを3重にして敷設すれば3倍の強度になるというものではない。例えば東京駅も今の品川駅も連続壁で建設しており、全国のいろいろなところで実績がある。なぜ連続壁で進めないのか。

熔融炉は確かに高コストだが、溶岩と同じようになるため処理可能なものが多い。経費をかけて整備するのなら、熔融炉とした方がいい。

江刺クリーンセンターでは、余熱利用として温水プールなどがある。現在、焼却炉は稼働していないが、プールは残っており、毎年、運営費を県が補填している。余熱利用施設は、処理施設が動いているうちだけ持つもの、処理施設が廃止すれば余熱利用施設を取り壊すくらいの覚悟で進めてほしい。

事務局 現在の基準では遮水シートは2重で敷設するが、最終処分場の地盤が軟弱で沈下すれば、それだけ遮水シートが伸びるので、シートの強度とあわせて計算し設計する。

東京駅などは、確かに連続壁で施工されていて、非常に優れた技術の1つだと思っているが、技術は適材適所で採用するものであり、これからの検討をもってそこをどういう構造にするか、この先、基本設計や実施設計で詰めていきたい。

熔融炉は、処理に大量のエネルギーを消費する。地球温暖化を真剣に考える時代にそれでいいのかということもある。

廃棄物処理施設の整備に当たっては、ごみも資源として最大限活用する。活用の方法は、焼却熱をエネルギーとして回収する。回収したエネルギーを電気にするには、熱エネルギーを機械設備により電気エネルギーに変えるので、回収効率

が低く20%から25%程度しか活用できないが、汎用性は高く遠くまで送れる。熱で利用すれば非常に回収効率が高いが、運搬が難しい。熱として使うのであれば、施設周辺で効果的に地域が発展するように使える手法を考えるべきである。

行政の考えだけで施設を整備するのではなく、地域との協働が重要だと思う。地域の皆さんと知恵を出し合い意見を交換しながら、目標を立て、効果的なエネルギー利用を考えたい。

余熱活用施設の整備は当初から計画しており、余熱活用施設をどのように整備するかは、具体的ではないが幾つかの案を考えている。候補地の絞込みの後、その候補地に対して幾つか提案したいが、一関市と平泉町の全ての住民が使えるものを考えている。つまり、市政課題、町政課題に対して答えを出せる必要があり、周辺の方に評価されるのも重要な要素である。全体的なことからの要請事項と、地域独自の要請事項の2つのことが絡んでいる。資源エネルギー循環という政策的な課題と一関市民、平泉町民という大きな目線での評価、さらには周辺住民からの評価を満たす必要がある。

余熱を使用するので、処理施設がなくなれば余熱活用施設はなくなるのかとの話だが、処理施設が仮になくなって、自立できるようなものが望ましい。

理想論を並べたが、大きな経費をかける施設なので、そのようなものが達成できる施設を考えたい。

参加者 新処理施設の候補地は、敷地を3ヘクタールとして比較検討されているが、この面積で候補地の絞込みを進めるのか。敷地面積を大きくすることにより、候補地の評価が大きく変わることがあるのか。

事務局 新処理施設の概略検討図を3ヘクタールで作成しているが、この内容はこれから変更していくことになると思われる。例えばプラスチック資源回収という新しい政府の方針もあるが、今の一関清掃センターと大東清掃センターのリサイクル施設を改良して処理ができるか、できない場合はリサイクル施設の整備時期をどうするか、それから余熱活用施設はまだどういうものにするか具体的なことは決まっていないので、そういうことも考えながら事業を進めていく。

なお、本日説明した評価項目については、敷地面積に増減があっても評価が変わらないものである。

参加者 余熱活用施設について、今の段階で想定があれば、考えを聞きたい。

事務局 施設の整備に当たっては、一関市、平泉町、広域行政組合の職員で組織する施設整備検討委員会で検討を進めているが、余熱の活用の検討は始まったばかりである。新処理施設の処理方式として焼却方式を主として案をまとめ、発生する大

体の熱量の見込みまでしか進んでいないので、具体的になり次第、説明したい。

検討委員会の会議自体は非公開だが、候補地選定の内容を除き会議の概要や会議資料などを組合のホームページに掲載しているので、ご覧いただきたい。

参加者 狐禅寺地区に廃棄物処理施設建設の提案をしていた時期の平成29年10月2日に狐禅寺地区との協議で組合が作成した資料には、余熱活用の内容が載っている。新処理施設の整備に当たっては、余熱活用施設の内容を検討中だとの説明だが、おかしいのではないか。施設周辺地域としては、それが最も重要なことである。

狐禅寺地区への提案では、ビニールハウスを建てる案になっているが、今説明会に参加している人たちは絶対やらない。やるとすれば20代や30代の若い人だから、そういう人たちが来て説明を聞かなければならない。幼稚園や保育園の子供を持っている若い人たちを呼んで説明してほしい。

事務局 狐禅寺地区との話し合いの際には、組合から余熱活用施設の具体的な案を複数示した。当時予定していた処理施設の規模や処理方式から見込んだ熱エネルギーの量や、その量から想定されるエネルギーの利用案として、入浴施設、体育施設、温水プール、集会施設、農業用ハウスなどの案を具体的に示したが、基本となる処理施設建設が狐禅寺地区では実現しなかったもので、提示しただけで終わっている。

次回の説明会では、施設規模の説明をしたい。施設規模から回収できるエネルギー量が見えてくるので、具体的な余熱活用施設の案などを示せるのは次回以降だろうと思う。

新処理施設は、40年程度使用したいと考えており、余熱活用施設は周辺地域や一関市、平泉町の若い方々がそれを使って活力に結びつけられるようなものが望ましい。知恵を絞り検討を進めたい。

参加者 排ガスやダイオキシンなど、大気汚染や大気汚染に強く影響が出るのはどれくらいの範囲を想定しているのか。

事務局 生活環境の保全を目的とした国の環境基準に基づき、施設を整備する。

環境への影響については、施設建設を始める前に環境影響評価を2年から3年を費やして調査する。例えば、排ガスは、大体煙突の高さを決め、地域の1年間の風向の変化も調べ、それぞれの季節によっての拡散のシミュレーションをする。一般的にはその施設を中心として2キロメートルの範囲で拡散のシミュレーション図をつくり、分かりやすく説明する。何か所かそうしたことをするが、影響は極めて微量ということになる。

参加者 評価の状況を見ると「弥栄字一ノ沢ほか」の評価が高いが、経費など4か所の

候補地で共通した基準で評価されている。候補地周辺地域としては、経費などよりも安全や周知などを心配している。説明会に参加した人は、ある程度は理解できると思うが、今後は口頭だけではなく、もっと多くの方々に説明できる方法を考えてほしい。

将来の子供たちが、良かったと思う施設にするため、みんなが納得できるように進めてほしい。

事務局 今回説明したのは、評価作業を終えた「受電環境」や「給水環境」などの評価項目の評価状況である。現在、評価作業を進めている評価項目は、次回の説明会で説明したいと思っており、さらに何か適切な評価項目はないか検討をしながら追加して評価していきたい。

これまで、住民説明会や組合広報誌により周知してきたが、若い方にご参加いただけないということもあり、周知方法の工夫をしたい。

参加者 今の廃棄物処理施設は、相当な巨大地震などでもない限り安全だと思っている。また、なくてはならない施設だと思うが、喜んで自分の地域に建設してほしいというものでもない。

施設が建設されることにより、その地域には何かメリットがあるのか。何らかの施設が整備される場合、その維持管理などがどうなるかも関心がある。

事務局 本日は、評価作業を終えた項目の結果について説明したが、評価作業中の項目を含めた評価全体を踏まえた上で、年内には1か所に絞り込む案を示したい。これは、組合の案を伝えるということであり、地権者や周辺住民の意向、そして余熱活用施設をどうするかなどは、そこからだと思う。

候補地を絞り込んだら、そこを対象としての2年間程度かけて環境アセスメント調査をする。それと並行して候補地周辺地域としての賛成や反対という議論も出てくると思う。また、地権者に対しての説明も行い、用地取得も進めていかなければならない。さらに、余熱活用施設への希望などの話も伺うことになる。

そうしたことを進めていくに当たり、できれば地域としてある程度意思形成をするための協議会のような組織があれば、一対一の関係で話をすることができ、地域の方々としても意見を取りまとめることができるかと思う。自主基準値などについても話をさせていただき、理解いただけるような場がほしい。廃棄物処理施設を見たことがないというの方々については、全国や近隣の自治体での処理の状況や、余熱活用の事例などを視察いただくのも一つの案だと思う。

今は、まだ先々のことまで言及するものではないが、年内には絞込みの案を提示できるように作業を急ぎたい。

参加者 新処理施設では、災害廃棄物も処理する計画だが、災害廃棄物を受け入れる範囲はどの辺までなのか。市外や県外からも運ばれるのか。

事務局 災害廃棄物は基本的に一関市、平泉町の範囲を処理するが、大規模な災害の発生など、その市町村だけでは処理しきれない場合に備え、奥州市、金ヶ崎町、栗原市、登米市、気仙沼市などの近隣の市町村と協定を結び、施設規模の余力分で災害廃棄物の処理を協力し合う。

現在、施設規模の計算にあたり、災害廃棄物の処理に必要な分も計算しているが、過去10年程度の一関市、平泉町内で発生した災害廃棄物の量を基礎にしている。それを超えるような場合は、物理的にできるものとできないものが出てくるので、それはそのときにまた状況を見ながら判断していく。

参加者 他県などから災害廃棄物が運ばれる際、アスベストなどの危険性がある廃棄物が無分別に運ばれる可能性がないのか。

事務局 新処理施設で処理するものは、家庭から出る家庭系一般廃棄物、業者が直接搬入する事業系一般廃棄物である。災害廃棄物については、一関市及び平泉町では火事や水害により生じるものが専らなので、先ほど申した数の積算の部分も火事、水害で出た過去10年間のものを積算の基礎にして計算をしている。それが物理的な上限だと思っている。

多量の災害廃棄物が発生した場合、まずは生活の場からできるだけ早くその災害廃棄物を避けて、災害時ストックヤードに運ぶ。災害時ストックヤードでは、災害廃棄物の分別をして、それぞれの種類ごとに処理できる施設に運び処理することになる。無分別に新処理施設で受け入れることにはならないので、安心いただきたい。

新処理施設で受け入れないもの、制度的にできないものがある。産業廃棄物は新処理施設では扱えない。東日本大震災で出てきた放射能に汚染された8,000ベクレルを超える廃棄物は、国が管理し処理するので新処理施設では受け入れない。さらに危険物といわれる品目などもこの施設では処理しない。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年9月13日（日）午後1時30分から午後2時55分まで
- 3 開催場所 牧沢集会所
- 4 参加者 15人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター3名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回の住民説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「廃棄物処理施設の環境対策」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

前回7月に開催した第2回説明会以降に検討をしてきた様々な内容について、その検討の状況について説明する。限られた時間ではあるが、より多くのご質問、ご意見をいただきたい。

よろしく願います。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について
令和2年9月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明を行った。
- (2) 検討状況について
事務局より説明を行った。
- (3) 今後の予定について
(2)と合わせて事務局より説明を行った。
- (4) 情報提供「私たちの暮らしと一般廃棄物処理施設」
日環センターより説明を行った。

9 質疑応答

参加者 新処理施設の評価項目の「収集運搬費」とは、新処理施設の耐用年数におけるごみを運ぶ費用か。

旧一関市と平泉町のごみが全体の5割か6割と聞いた気がする。「真柴字堀場ほか」の候補地は、旧一関市や平泉町からは距離的には一番近い。例えば「弥栄字一ノ沢ほか」はその倍以上の距離が多分あると思われ、40年間の期間で考えれば相当の差が出るのではないか。

事務局 新処理施設には、一関市と平泉町の全域から毎日ごみが集められる。それに要する40年間の経費として試算したものがこの「収集運搬費」であり、候補地ごとに大体140億円から150億円程度となっている。

参加者 評価の状況を見ると、新処理施設では「弥栄字一ノ沢ほか」が、新最終処分場では「千厩字北ノ沢ほか」の評価が高く、それぞれが決定と考えるがどうか。

事務局 本日は評価作業を終えた評価項目について説明したが、これから全ての評価項目を評価し、総合評価としてどの評価項目を重点的な項目にするか検討した上で絞り込む。

今回は、作業の途中の状況を説明したものであり、これで決まるということではない。

参加者 最重点的な評価項目とはなにか。

事務局 どの評価項目が重点項目になるかは未定である。全ての評価作業を終えてから、その全体を眺めてその中でどの項目が重点かを総合評価の中で検討し、最後に1か所に絞る。

参加者 現在計画されている取付道路は、急勾配で急カーブになっている。別なルートを検討した方が良いのではないか。

事務局 概略検討図は、候補地を比較するためのものであり、概略検討図のと通りの取付道路とすることは考えていない。取付道路は、候補地を絞り込んだ後に、施設周辺地域の方々との協議や交通安全上の検討などを重ねた上で、基本設計や実施設計を組んで進めたい。

参加者 新処理施設の経済性の比較では、造成費、取付道路、収集運搬費の合計で比較している。収集運搬費は毎年の予算から支出するものなので、経済性に含めず、距離で比較した方が説明としてわかりやすいのではないか。

事務局 造成費や取付道路整備費や用地などは初期費用といい、施設を整備する際に必要になるものだが、運転管理や収集運搬費などは、維持費用として施設の稼働後40年間毎年必要になる。運転管理費の評価はまだ終わっておらず、収集運搬費は距

離による比較もできたかと思うが、経済性で評価することとした。

参加者 現地確認に承諾のなかった地権者は、反対のために承諾しなかったのか、それともうやむやだったのか。

事務局 8月19日行った現地確認のため、土地の立入りについて承諾をお願いしたが、全員からの返事は得られなかった。承諾しないとの返事はごく一部であり、承諾が得られなかった大部分は返事がないことによるものであり、約7割5分の方からは承諾の返事をいただいた。

参加者 整備場所を決めた段階で地権者から反対があった場合、どのように進めるのか。

事務局 現在、候補地の絞込みのための評価作業中であり、候補地周辺の方から賛成や反対の意思表示もまだなく、用地取得などの交渉や連絡も行っていない。

まずは、候補地の評価作業を急ぎ、評価結果を年度内に公表すると案内していたものを年内に前倒しすることを優先して進めている。評価作業の後に、候補地周辺の方や、地権者の意向を伺うことになると思うが、評価作業を終えた後、どういう手順で進めるかは未定である。

参加者 「真柴字堀場ほか」は、一関市の中心部に近く、周辺に中田団地や関が丘団地がある。

新処理施設の処理方式には焼却方式を採用する案とのことだが、人体などに影響がないのか。他の自治体の事例では、環境に対する問題などが提起された経過があるか。

事務局 昨年度のデータだが、日本国内に焼却施設が1,120施設運営されており、問題や紛争に対応するため公害調停などの制度が整えられている。廃棄物処理施設の人体への影響などで紛争に至った事例は、過去何年か見ても出ていない。工場からの悪臭や騒音などは出てくるが、廃棄物処理施設をめぐっての紛争や、公共が関与して調停というものはない。

また、国では施設の整備方針を定める廃棄物処理施設整備計画を策定し、5年ごとに改定している。前回は2年前に改定されたが、地域の発展に寄与するような施設とすることも考慮して施設を整備するように方向として出されている。地域に根差す施設なので、いい施設にしたい。

参加者 候補地の絞込みは、候補地周辺住民の反対の少ないところに決めるのか。

事務局 評価は、候補地周辺住民の賛成や反対までは評価できない。客観的に候補地を評価し、その後に説明をしていくようになると思う。

今日の中間報告をするに当たり、どこの地域からも意向を聞くようなことは一切していない。現地調査をするため、土地の立入りに関する意向確認をただけ

である。年内に候補地の絞込みの案を示したいが、あらかじめ意向を確認する連絡をすることや、賛成の声があるところに決めていくことは考えていない。

参加者 エネルギーの利用については、検討事項とあるが、余熱活用施設は皆さんが活用できる施設としたいとの話があった。「真柴字堀場ほか」の周辺には学校も多くあり、保護者が車で送迎しなくとも自転車で来ることができる。そういう場所に施設を整備するべきだと思う。

今後の日程について、詳しく願います。

事務局 ご意見は受けとめる。施設の建設費が100億円以上を想定しており、40年間の維持管理費はさらに大きな金額となる一関市と平泉町にとっての一大プロジェクトである。十分に検討した上で答えを出し、きちんとした説明をしたい。

今後のスケジュールとしては、次の説明会では、全ての評価項目の評価作業を終えた内容を示したい。12月までの間に必要な回数の説明会を開催し、年内に1か所に絞り込みたい。

令和2年度中にそれぞれの整備予定地が決まった場合、令和3年度から3年間をかけて各整備予定地の生活環境影響調査とそれぞれの施設の基本設計など進める。次に令和6年度から、新処理施設は3年、新最終処分場は2年をかけて建設工事を行う。新処理施設は令和9年稼働開始、新最終処分場は令和8年の供用開始を目指している。

参加者 候補地の土地の評価は、単価は同一として扱うのか。

事務局 本日は、造成費、取付道路整備費、40年間収集運搬経費の合計を示した。これから各候補地の買収単価を調べて用地取得費を試算し、40年間の運転管理費も試算し、それらの合計額で経済性の評価をする。用地取得費は次回に示したい。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年9月13日（日）午後3時35分から午後4時30分まで
- 3 開催場所 牧沢集会所
- 4 参加者 2人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター3名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回の住民説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「廃棄物処理施設の環境対策」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

前回7月に開催した第2回説明会以降に検討をしてきた様々な内容について、その検討の状況について説明する。限られた時間ではあるが、より多くのご質問、ご意見をいただきたい。

よろしく願います。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について
令和2年9月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明を行った。
- (2) 検討状況について
事務局より説明を行った。
- (3) 今後の予定について
(2)と合わせて事務局より説明を行った。
- (4) 情報提供「私たちの暮らしと一般廃棄物処理施設」
日環センターより説明を行った。

9 質疑応答

参加者 「真柴字堀場ほか」は、どのような施設の整備候補地なのか。

事務局 「真柴字堀場ほか」は、新処理施設の整備候補地である。

新処理施設の処理方式を焼却方式とする検討案であるため、いわゆる焼却施設だが、焼却熱を利用して発電するなどエネルギー回収型の施設を予定している。

参加者 施設整備予定地が決まった場合、その施設にはどこからごみが運ばれてくるのか。

事務局 現在一関清掃センターと大東清掃センターがあるが、これを統合して1施設にする計画である。そのため、どの候補地に整備された場合も、新処理施設には一関市と平泉町全域からごみが集められることになる。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年9月14日（月）午後6時30分から午後7時45分まで
- 3 開催場所 平泉町役場
- 4 参加者 17人
- 5 事務局
青木幸保副管理者、佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、
村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、
小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、
吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、
一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回の住民説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「廃棄物処理施設の環境対策」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

前回7月に開催した第2回説明会以降に検討をしてきた様々な内容について、その検討の状況について説明する。限られた時間ではあるが、より多くのご質問、ご意見をいただきたい。

よろしく願います。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について
令和2年9月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明を行った。
- (2) 検討状況について
事務局より説明を行った。
- (3) 今後の予定について
(2)と合わせて事務局より説明を行った。
- (4) 情報提供「私たちの暮らしと一般廃棄物処理施設」

日環センターより説明を行った。

9 質疑応答

参加者 整備候補地周辺の住民へは、説明しているのか。

事務局 今回の説明会は、広く参加を呼びかけ、候補地に近い8会場で10回開催しており、多くの候補地周辺の住民に参加いただいている。候補地を1か所に絞り込んだ後は、地元住民や地権者を対象とした説明も検討する必要があると思う。

参加者 最終処分場に降った雨は、水処理施設で処理して放流されると説明を受けたが、災害時などでも未処理の水が施設から漏れることはないのか。

事務局 最終処分場は、万が一の漏水に備えて漏水探知機などを設置するが、基本的には地震などの災害に耐えられるように施設を設計するので、未処理の水が漏れることはない。また、それぞれの候補地は、候補地選定委員会において災害で被害が生じる恐れのある場所を除いて選定しているため、土地としての安全性は確保されている。安全な整備場所に安全な施設を整備することで全体的な安全性を確保できるように考えている。

参加者 新たに整備する施設は、エネルギーの回収が可能とされているが、これから人口が減少していく中、将来のことを計算して焼却量や回収エネルギー量を計算しているのか。

事務局 新処理施設の規模は、将来のごみ排出量を推計し、稼働開始年度である令和9年度のごみ排出量を基に規模を計算する。この規模の計算が終われば、施設から回収できる電力量や熱量などのエネルギー量が見込めるようになる。

参加者 一関清掃センター周辺は、夏などは悪臭がする。これは業者の運搬車両の問題だと思う。業者の車までを含めて考えるべきではないか。

事務局 大都市では、処理施設と民家が隣り合っているところもあるが、臭気についての苦情はほとんどない。施設自体は、負圧にして施設外に臭気を含む空気が出ないようにし、焼却による熱分解で臭気の基を完全に分解できる。

収集車両は、密閉性が高く汚汁が漏れることはほとんどないが、施設でゴミを降ろす際に扉の縁にゴミが付着することがあり、そのまま施設の外に出るとそれが臭いの原因になることがある。その対策として、車両についてゴミを洗い流し、きれいな状態で施設外に出るようにする洗車装置を施設に整備したい。

参加者 奥州市の江刺地区には、県で整備した産業廃棄物処理施設の余熱活用施設として風呂やプールがある。処理施設の廃止後も、住民要望により余熱活用施設だけは現在も使用されているが、処理施設からの余熱が無くなったため、負担が増えた形で運営されている。新処理施設でも同様の事が予想されるので、負担となる

施設は整備しないほうがいいのではないか。

事務局 余熱の活用は、施設規模が決定し、余熱量、発電量を見込んだ後の検討となる。活用方法は検討委員会で協議するが、施設を建設すると決めているものではない。例えば発電した電気は全て売却するなどの方法もあるが、一関市と平泉町の課題を余熱の活用により解決できるのであれば、活用した方が良いと思う。ただし、新処理施設から発生する余熱だけを当てにして施設を運営するのではなく、将来的に人口も減少するので、施設が将来的には自立できるように、エネルギーの設計もしなければならないと思う。いずれ検討委員会で検討しなければならない。良いアイデアがあればお寄せいただきたい。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年9月15日（火）午後6時30分から午後8時まで
- 3 開催場所 刈生沢コミュニティセンター
- 4 参加者 17人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回の住民説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「廃棄物処理施設の環境対策」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

前回7月に開催した第2回説明会以降に検討をしてきた様々な内容について、その検討の状況について説明する。限られた時間ではあるが、より多くのご質問、ご意見をいただきたい。

よろしく願います。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について
令和2年9月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明を行った。
- (2) 検討状況について
事務局より説明を行った。
- (3) 今後の予定について
(2)と合わせて事務局より説明を行った。
- (4) 情報提供「私たちの暮らしと一般廃棄物処理施設」
日環センターより説明を行った。

9 質疑応答

参加者 近年は、想定できない気象状況が続き、最近も大雨による災害などが全国で多発している。オープン型の最終処分場では、降った雨は浸出水として処理されると思うが、降る雨の量も想定外という状況が続いた場合はどうなるのか。

事務局 浸出水処理施設の規模は、過去の大雨のデータなども参考に決定する。大雨が降った場合、浸出水処理施設の前に一旦調整槽に貯め、浸出水処理施設の処理能力に合わせて流していく。調整槽は大きな容量だが、想定外の大雨により容量が不足する場合、埋立地内に一度雨水を貯め、調整槽が溢れないよう管理する。

また、埋立地は、外から水が流れ込まないよう措置をする。そして、埋立地以外の敷地に降った雨は防災調整池に貯め、下流域に放流する。

浸出水処理施設で処理する水は、埋立地内に降った雨だけであり、調整槽に貯める水も埋立地内に降った雨だけになる。

参加者 最終処分場では上水道の水を使うと思うが、花泉町金沢字長沢ほかの候補地付近は、現在でも水圧が足りなくて困っているが、どうするのか。

事務局 最終処分場で使う水の量は、最終処分場の機能として使うのではなく、そこで作業する人が使用するものであるから、家1軒分くらいの量である。仮に施設の整備により、それまでの水量や水圧などに影響が出るようであれば、何らかの改善をするが、今はそこまでの詳細な設計には至っていない。

参加者 新最終処分場は、新処理施設から来る灰を埋め立てる場所だと認識していた。

灰の中にはまだ有害物質が残っていて、有害物質を除去するための施設が最終処分場には必要だと説明があったが、焼却の段階でさまざまな有害物質を除去しているはずだが、灰になるまでに完全に除去できないのか。

事務局 新処理施設で処理するものは、家庭などから出る廃棄物であり基本的に有害なものではないが、焼却することにより、廃棄物の中の塩素が塩化水素になったり、人間の体内にある養分などが硫黄酸化物になったり、高温で窒素酸化物が生じたりする。これらについては新処理施設で処理をする。

しかし、焼却灰には、ミネラル分である金属や無機物などが残り、その濃度は自然環境より高くなる。人体に必要な元素である鉄分や亜鉛などが金属として残るのだが、砂糖や塩、カフェインなどにも致死量があるように、濃度が高くなれば、有害になる。それを最終処分場では、アルカリ凝集沈殿処理や生物処理、薬品処理などで、濃度が高くても安全なものにする。いろいろなものがある濃度に達すれば有害性を持つので、それを防ぐということになる。

参加者 候補地の現地確認を行うために地権者に土地の立入りの承諾を求め、7割以上

から承諾を得たとのことだが、今後、承諾が得られない土地があることに問題はないのか。

事務局 承諾書を返信いただき、土地の立入りを承諾された方が7割以上だが、数名の方からは承諾しないとの返事もいただいた。それ以外は、例えば返信がない方や、承諾書は返信しないが、土地の立入りは承諾するという方もいた。候補地はそれぞれの施設で4か所ずつあるので、土地を譲っていただけるかは誰にも聞いていない。今後、1か所に絞り込むに当たり、どうすればいいか考えている。

参加者 今年中にそれぞれ1か所に絞り込むということだが、その結果はこれまでと同様に説明会を開催して報告するのか。

事務局 年内に1か所に絞り込んだ案を示したい。それは、あくまでも客観的な評価作業の結果であり、その結果と組合としての意思として決定までできるかはわからない。まずは全ての評価項目の評価作業を進め、評価結果を並べ、恐らくそのときには項目ごとの重みづけなどの判断が必要になると思うが、そこまでを終えてから次の説明会を開催するべきか、途中まででもできるだけ早く皆様にお知らせするべきか、考えがまとまっていない。

それぞれ1か所に絞込みが決定するまでは、これまでと同様の形で説明会を開催したい。

参加者 最終処分場には、焼却灰だけ最終処分場に来るわけがないと思う。東日本大震災のときには花泉清掃センターにがれきもかなり運んだ。新最終処分場にもいろいろなものが入るという想定でいいのか。

事務局 現在、最終処分場は花泉清掃センター、舞川清掃センター、東山清掃センターの3施設がある。埋め立てているものは焼却灰のほかに、ガラスや茶わんのかげらなどの不燃残渣などがある。災害廃棄物も分別して、焼却にも金属類として売ることもできないものは、今までと同様に不燃残渣として埋め立てることになる。

参加者 災害時、最終処分場は、一時仮置き場としての利用だけではないのか。

事務局 災害時には、生活を再建するため、生活の場から災害廃棄物をできるだけ早く搬出する必要があることから、災害時ストックヤードに災害廃棄物を運び、仮置きをする。そこで分別をして、焼却処理するものは焼却施設に、金属類などはリサイクル施設などに運び、それぞれの施設で適切な処理をする。ガラスや陶器類などについては、日常の廃棄物同様に埋立処分することになる。

オープン型の最終処分場は、災害時にストックヤードとしても使えるという利点を説明したが、基本的には新処理施設に併設する災害時ストックヤードを使用

する。最終処分場を災害時ストックヤードに使うことを前提としたものではない。

参加者 最終処分場の評価項目の造成費と取付道路整備費の合計には、取付道路に至るまでの道路改良は含まれていないのか。

事務局 概略検討図に示す取付道路は、候補地の評価をするためのものであり、この道路の形で取付道路整備を試算している。この取付道路までの道路改良に係る経費は含んでいないが、全く整備しないということではない。その状況に応じて必要があれば整備するが、組合であるか、一関市であるかは、今後、協議することになる。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年9月16日（水）午後6時30分から午後8分まで
- 3 開催場所 東山市民センター
- 4 参加者 5人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回の住民説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「廃棄物処理施設の環境対策」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

前回7月に開催した第2回説明会以降に検討をしてきた様々な内容について、その検討の状況について説明する。限られた時間ではあるが、より多くのご質問、ご意見をいただきたい。

よろしく願います。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について
令和2年9月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明を行った。
- (2) 検討状況について
事務局より説明を行った。
- (3) 今後の予定について
(2)と合わせて事務局より説明を行った。
- (4) 情報提供「私たちの暮らしと一般廃棄物処理施設」
日環センターより説明を行った。

9 質疑応答

参加者 調整槽の大きさは、どのように決まるのか。

事務局 調整槽の大きさは、埋立地の規模と過去の降雨量、浸出水処理施設の処理能力から計算する。オープン型の場合は、雨水の入ってくる量が日によって変わるので、大雨が降ったときには浸出水処理施設の処理能力以上の雨水が入ってくる。それを一旦貯めておくために調整槽を設けるのだが、埋立地の規模や経済性などを総合的に換算して決定するということになる。

参加者 時間雨量で100ミリの降雨は、今、あちこちで起きている。これからさらにその傾向が強くなるだろうと思うが、新最終処分場の整備には問題ないのか。

事務局 過去の降雨量などからの想定を超える降雨量も大変多くなってきている。最終処分場の設計や設備の検討に当たっては、そのような状況を考慮して検討したい。

参加者 中間評価としてそれぞれの候補地の評価の状況について説明を受けたが、その評価の状況で、課題がない、または少ない評価の候補地が有望な候補地なのか。

また、9月発行のくらしの情報に、「候補地周辺の土地関係者に承諾をいただく準備を進めており」と記載があるが、地権者や周辺住民の反応や、了解を得られるかを含めて最終判断するということか。

事務局 本日は中間状況ということで、評価項目のうち「受電環境」、「給水環境」、「施設建設の阻害要因」などの評価作業を終えた評価項目を説明したものであり、これで絞込みがされるわけではなく、次回以降に全ての評価項目の評価作業を終えた全体を示す形になると思う。

全ての評価項目の評価作業を終えたら、項目ごとの重み付けも評価全体を見た上である必要があると思っている。

9月発行のくらしの情報の8ページは、7月に開催した住民説明会でいただいた質問とその回答を掲載しているものであり、「現地確認をするため、候補地周辺の土地関係者に承諾をいただく準備を進めており、この現地確認の結果も絞り込みに反映させる予定です。」との記載は、7月の説明会時点では土地所有者に土地の立入りの承諾をいただくための準備をしており、8月19日に現地確認で検討委員が現地を確認し、その内容を交通安全などの項目で反映をしていくというものである。現地確認のための承諾ということで、その事業に協力していただけるかというものではない。

参加者 近年では、最終処分場の形式としてクローズド型が約24%採用されているとのことだが、クローズド型はどういった理由から採用されているのか。

事務局 クローズド型は、規模が大きくなると工事費が嵩み、屋根を設けるために構造なども難しくなるので小規模な施設での採用が多く、クローズド型を採用した施設の7割ぐらいは3万立方メートル以下の小規模な施設である。

今回、計画している規模は17万8,000立方メートルなので、大きく違うものになる。

参加者 新処理施設で回収するエネルギーの量と種類は、どう想定しているのか。
太陽光発電設備などの併設は考慮しないのか。

事務局 新処理施設の処理方式について焼却方式を主とする案を示したので、回収するエネルギーは、発電した電気と、発電に利用した残りの温水が使えるかと思っている。温水の利用については、具体的にはまだ何も検討していないので、いいアイデアがあればお寄せいただきたい。

太陽光発電設備の導入は、まだ検討していないが、公共用施設には大体太陽光パネルを載せたりしているので、同じような傾向になるかと思っている。

参加者 浸出水処理施設には、作業員が24時間常駐して監視するのか。常駐しない場合、異常があった際に問題はないのか。

事務局 一般的に、作業員が施設に24時間常駐することはないが、例えば緊急停止などの異常があった場合は、すぐに連絡がいくようになっている。また、処理されていない水が放流されないよう遮断する設備も設置することになる。

10 担当課 総務管理課